

③
フィルム

聖徒たちと歩む聖書 ~11~
アブラハム その3

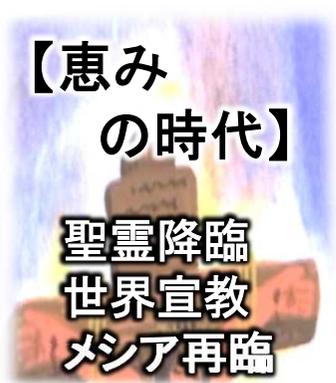
「主を信じて
義とされる」

創世記15~16章 契約の締結

【今日のアウトライン】

- 0. ふりかえり
- I. 星空を仰いで
- II. アブラハム契約の締結
エジプトの苦難の予告
- III. イシュマエルの誕生
- IV. まとめと適用
アブラハムに学ぶ
信仰と行いの関係





【無垢の時代】

【良心の時代】

【人類統治の時代】

【約束の時代】

【律法の時代】

【恵みの時代】

【御国の時代】

天地創造

墮罪
~大洪水

バベルの
塔事件

アブラハム
~ヤコブ

イスラエル
王国時代
メシア初臨

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

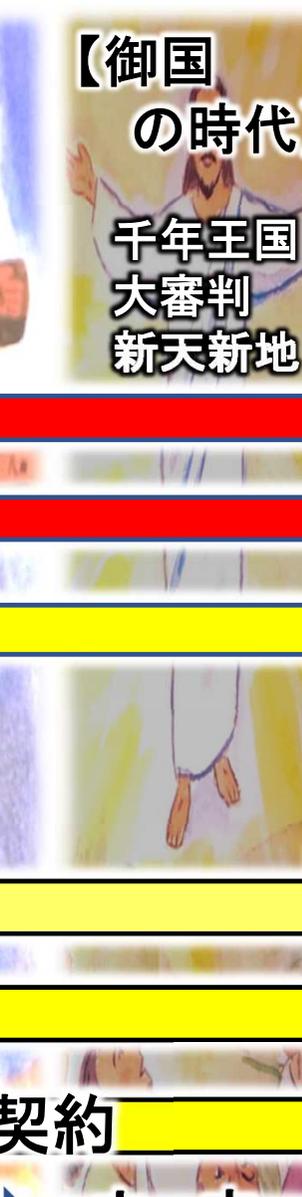
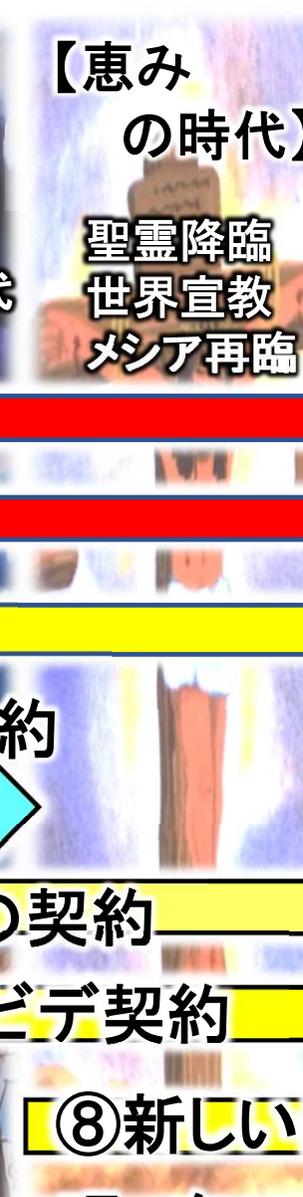
⑧新しい契約

【ディスペンセーション】
七つの時代区分と
八つの契約

過去

現在

未来



【無垢の時代】

【良心の時代】

【人類統治の時代】

【約束の時代】

【律法の時代】

【恵みの時代】

【御国の時代】

天地創造

墮罪
~大洪水

バベルの
塔事件

アブラハム
~ヤコブ

イスラエル
王国時代
メシア初臨

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

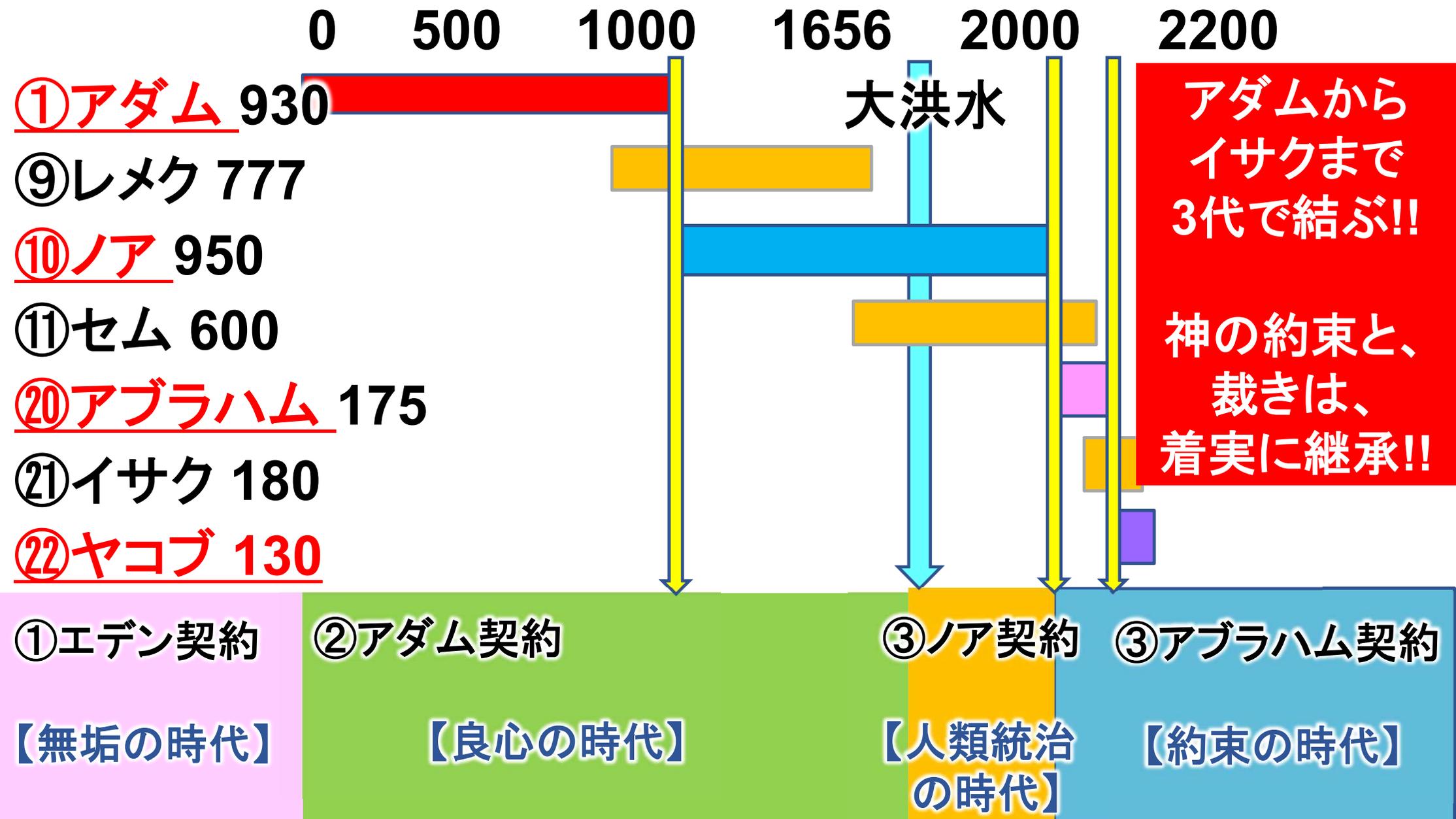
⑧新しい契約

神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来



【創世記11章までに明らかにになったこと】

①人類は、たった一つの約束も守れなかった。



②人類は、**良心**によって、世界を正しく治めることはできなかった。



③人類は、**組織**によっても、世界を正しく治められなかった。

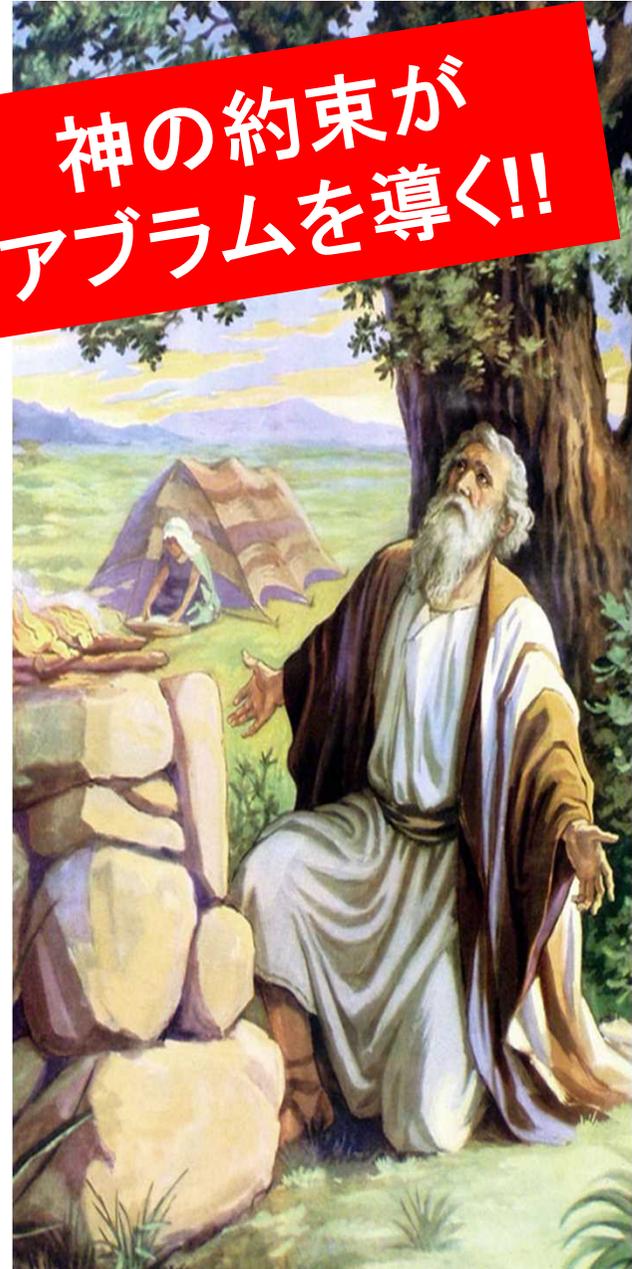
人間は、自分の努力で、神との平和を作り出すことはできない!!
人類の希望は、神が約束された女の子孫、メシアにある!!

神の計画が、いよいよ、アブラハムから動き出す!!

【アブラムの召命】 12章のまとめ

- 行きなさい、という神の命令に応え、行き先も分からぬまま、ウルの町を旅だったアブラム。
- 75歳にして辿り着いた、呪われた民カナンの地。アブラムはそこで、最初の礼拝を献げた。
- 飢饉のため、約束の地を離れエジプトに逃れたアブラムは、妹と偽らせた妻サライを、エジプト王パロに召しいられてしまう。
- 神の介入により、サライは無事助け出された。過ちにも関わらず、守られ、富まで得たアブラム。
- 一方的な神の無条件の約束が、アブラムを守ったのだった。

神の約束が
アブラムを導く!!



【アブラハム契約】 12章で約束されたこと

■アブラム個人への祝福■

多くの民族がアブラムから生まれ、
アブラムの名が讃えられる。

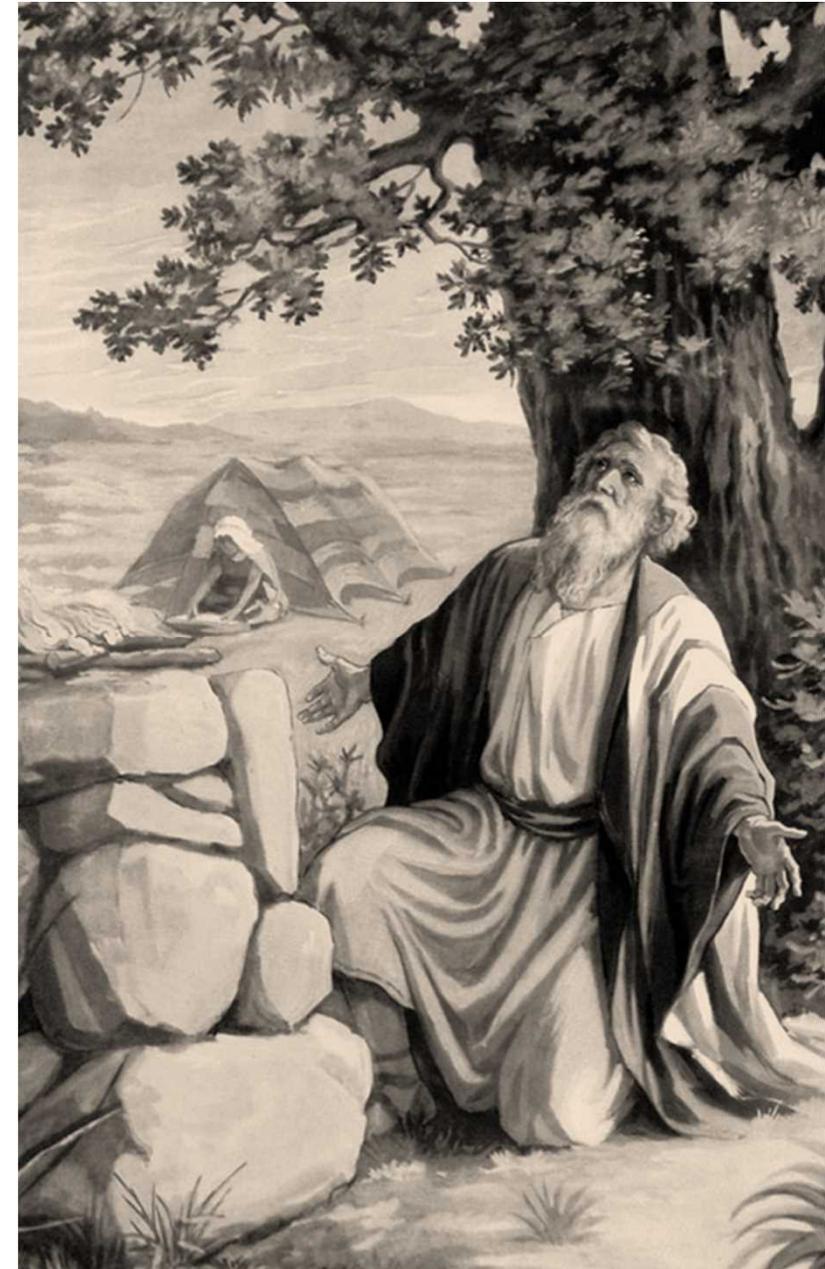
■アブラムと子孫を守る付帯条項■

アブラムを呪う者には呪いが、
祝福する者には祝福が与えられる。

■メシアによる全民族への祝福■

「地上のすべての民族は、
あなたによって祝福される。」

⇒アブラムの子孫からメシアが誕生する。



【アブラムの試練と祝福】 13～14章

- エジプトで得た富が原因で甥ロトと別れた。
- 子孫が地の塵のように増え、見渡す限りの地が与えられると、神からの約束が!!
- 北方の帝国の侵略により、ソドムは壊滅。ロトは虜囚となる。アブラムは、猛追撃し、敵を撃破、ロトと人々を奪還して凱旋した。
- アブラムを祝福したサレムの王であり祭司メルキゼデクは、来たるべきメシアのひな形。
- アブラムに約束されたすべては、メシアによって完全に成就される時が来る。
- 神の約束への信頼を育まれていくアブラム。

子孫の約束

土地の約束



I. 星空を仰いで

創世記15:1~6

【主のことば】 創15:1

これらの出来事の後、【主】のことばが幻のうちに
アブラムに臨み、こう仰せられた。

■ これらの出来事の後 ⇒ ロト奪還の激戦の後に!!

・3度目の契約の確認 ・4度目の神の出現

■ 【主】のことば ⇒ 初出。これが主語。主格。

「初めに、ことばがあった。ことばは神と
ともにあった。ことばは神であった。ヨハネ1:1」

「まことに、まことに、あなたがたに告げます。
アブラハムが生まれる前から、わたしはいるの
です。ヨハネ 8:58」

アブラハムに
語りかけたのは
主イエスご自身!!



【主のことばの呼びかけ】 創15:1

「アブラムよ。恐れるな。わたしはあなたの盾である。
あなたの受ける報いは非常に大きい。」

※恐れるな ...初。

■アブラムは何を恐れた？

⇒少数で大軍を撃破させた神の力に!!

「こんなちっぽけな者に、こんなことができるわけがない!!」と、
主の力を体験した者は、主を畏れる。

■圧倒的な方が、私たちを守られ、報われ、
私たちに個人的な親しい関係を望んでおられる!!

【アブラムの訴え】 創15:2~3

そこでアブラムは申し上げた。「神、主よ。私に何をお与えになるのですか。私には子がありません。私の家の相続人は、あのダマスコのエリエゼルになるのでしょうか。」

さらに、アブラムは、「ご覧ください。あなたが子孫を私に下さらないので、私の家の奴隷が、私の跡取りになるでしょう」と申し上げた。

■ 初めての神とアブラムの対話

※神、主よ(初) ⇒ 「アドナイ、ヤハウエ」

「わが主、わが神。ヨハネ20:28」トマスの信仰告白

※跡取りがなく、僕に継がせる ⇒ 当時の慣習

■ 子孫の約束にも関わらず子ができない。

自分の不安や思いを率直に神に伝えるアブラム。



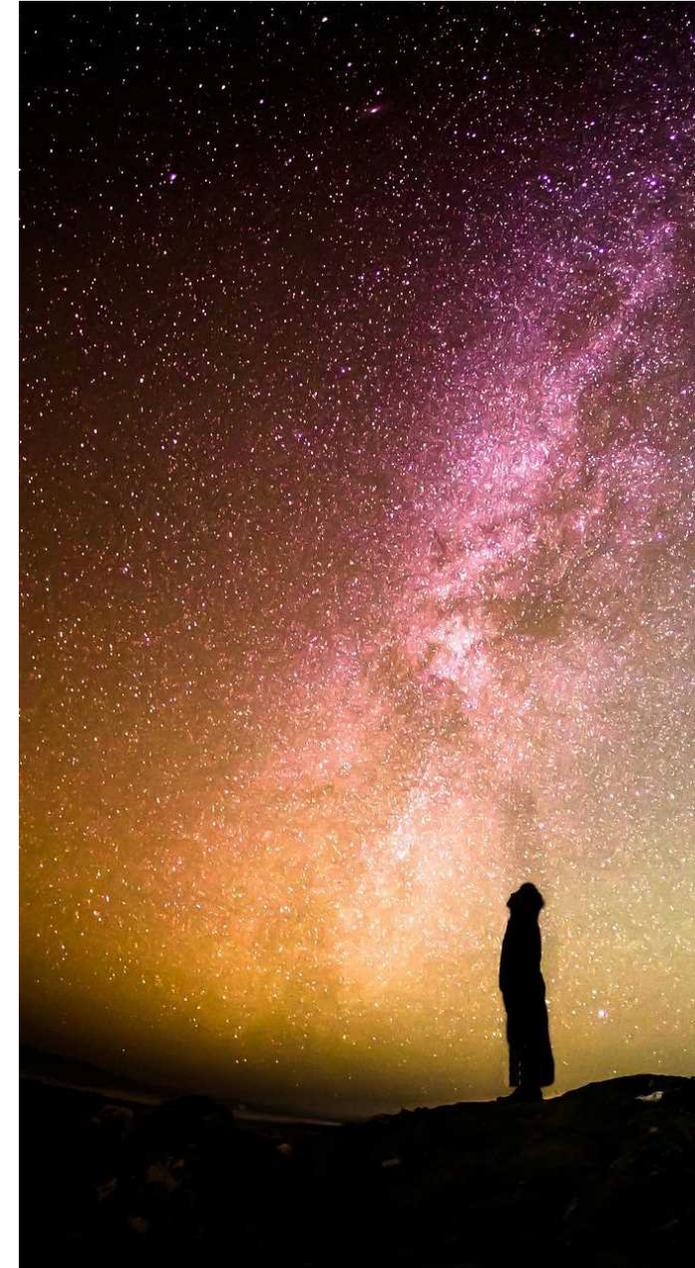
【星空を仰いで】 創 15:4~5

すると、【主】のことばが彼に臨み、こう仰せられた。「その者があなたの跡を継いではならない。ただ、あなた自身から生まれ出て来る者が、あなたの跡を継がなければならない。」

そして、彼を外に連れ出して仰せられた。「さあ、天を見上げなさい。星を数えることができるなら、それを数えなさい。」さらに仰せられた。「あなたの子孫はこのようになる。」

■ 星空に圧倒された体験がありますか？

アブラムは、遙かな神の約束に圧倒された!!



【信仰義認】 創 15:4

彼は【主】を信じた。主はそれを彼の義と認められた。

■ アブラムは、主の約束を信じて救われた。

■ 聖書の救いの教理の大原則 ⇒ 信仰義認

■ 救いの不変の原則

① 信じるべき対象 ⇒ 唯一の神

② 信じるべき内容

⇒ その時代に啓示された神の約束

③ 救いの方法 ⇒ 信仰により恵みによる

救いに求められるのは、
唯一の神の約束を信じる信仰!!



Ⅱ. アブラハム契約の締結 エジプトでの苦難の予告

創世記15:7～21



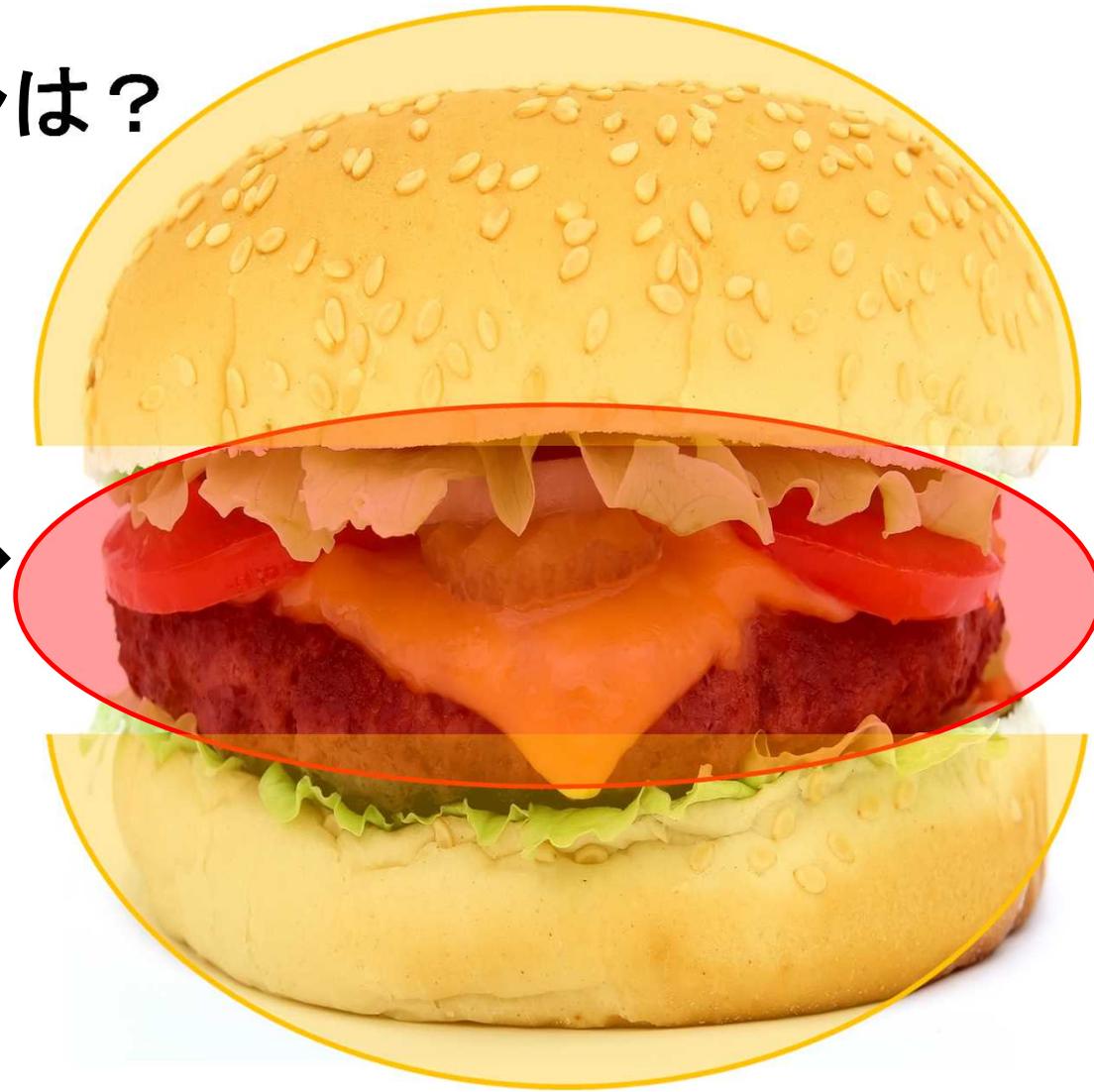
【創世記15:7～21の構造】

この構造から見たときのメインは？

1. 契約の締結の準備 ⇒
(1～11節)

2. エジプトでの苦難の予告 ⇒
(12～16節)

3. 契約の締結 ⇒
(17～21節)



【創世記15:7～21の構造】

1. 契約の締結の準備 ⇒
(1～11節)

2. エジプトでの苦難の予告 ⇒
(12～16節)

3. 契約の締結 ⇒
(17～21節)



【土地の約束】 創15:7～8

また彼に仰せられた。「わたしは、この地をあなたの所有としてあなたに与えるために、カルデヤ人のウルからあなたを連れ出した【主】である。」
彼は申し上げた。「神、主よ。それが私の所有であることを、どのようにして知ることができましょうか。」

- ①「子孫の約束」の確認がなされ、次いで、
- ②「土地の約束」が確認がされる。

■アブラムは、土地の所有権の確証を求めた。
ここから正式な契約の締結が行われていく。



【血の契約】 創15:9～11

すると彼に仰せられた。「わたしのところに、三歳の雌牛と、三歳の雌やぎと、三歳の雄羊と、山鳩とそのひなを持って来なさい。」

彼はそれら全部を持って来て、それらを真っ二つに切り裂き、その半分を互いに向かい合わせにした。しかし、鳥は切り裂かなかった。

猛禽がその死体の上に降りて来たので、アブラムはそれらを追い払った。

■ 血の契約 ... 当時の最も重い契約の方法

切り裂いた犠牲の間を契約の当事者が通る。

約束を破った者は、死をもって償うということ!!



【創世記15:7～21の構造】

1. 契約の締結の準備 ⇒
(1～11節)

2. エジプトでの苦難の予告 ⇒
(12～16節)

3. 契約の締結 ⇒
(17～21節)



【暗闇の中で】 創15:12

日が沈みかかったころ、深い眠りが
アブラムを襲った。そして見よ。
ひどい暗黒の恐怖が彼を襲った。

■ **ただの眠りではない!!**

むしろ意識は、普段以上に明瞭!!

■ **アブラムは、**

特別な神の啓示を受け取るために、
特別な精神状態の中に置かれた!!

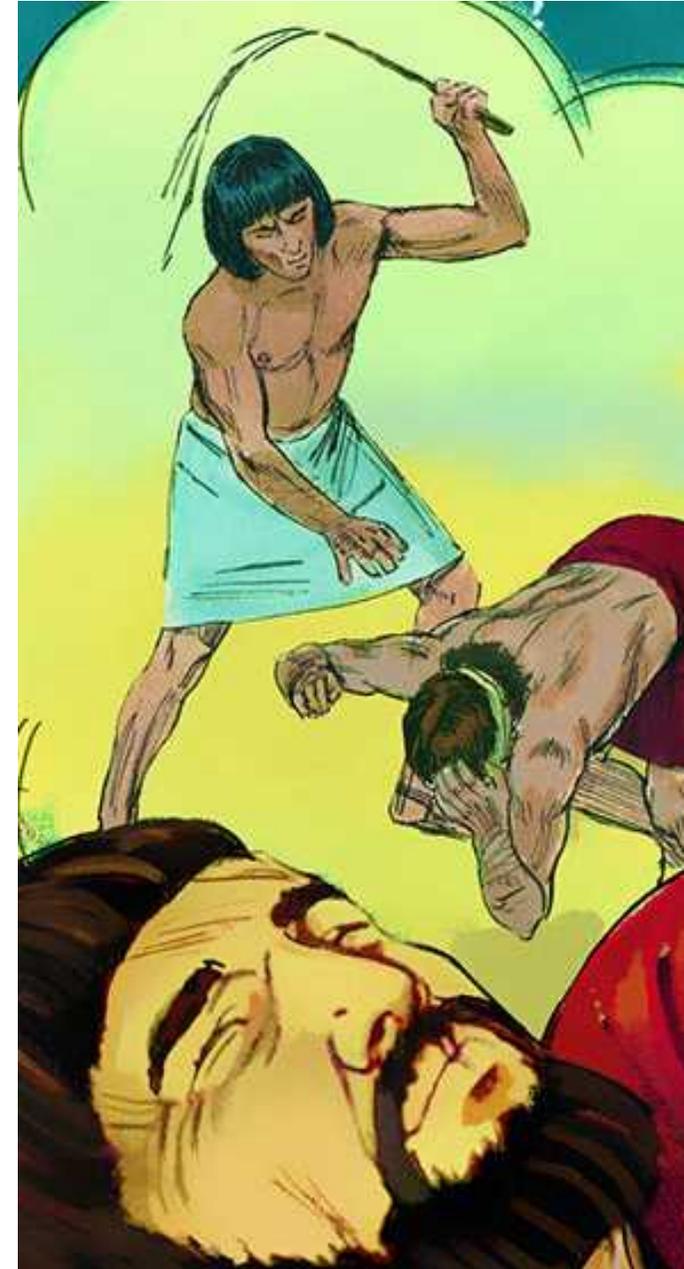


【エジプトでの奴隷生活】 創15:13～14

そこで、アブラムに仰せがあった。「あなたはこの事をよく知っていないさい。あなたの子孫は、自分たちのものでない国で寄留者となり、彼らは奴隷とされ、四百年の間、苦しめられよう。

しかし、彼らの仕えるその国民を、わたしがさばき、その後、彼らは多くの財産を持って、そこから出て来るようになる。

- アブラムの子孫はエジプトで奴隷となる!!
- 400年の奴隷生活の末に、エジプトは裁かれ、子孫は、多くの財産をもって、解放される。



【カナンの裁きの猶予期間】 創15:15～16

あなた自身は、平安のうちに、あなたの先祖のもとに行き、長寿を全うして葬られよう。そして、四代目の者たちが、ここに戻って来る。それはエモリ人の咎が、そのときまでに満ちることはないからである。」

※四代目の者たち ⇒ここでは、400年を指す。

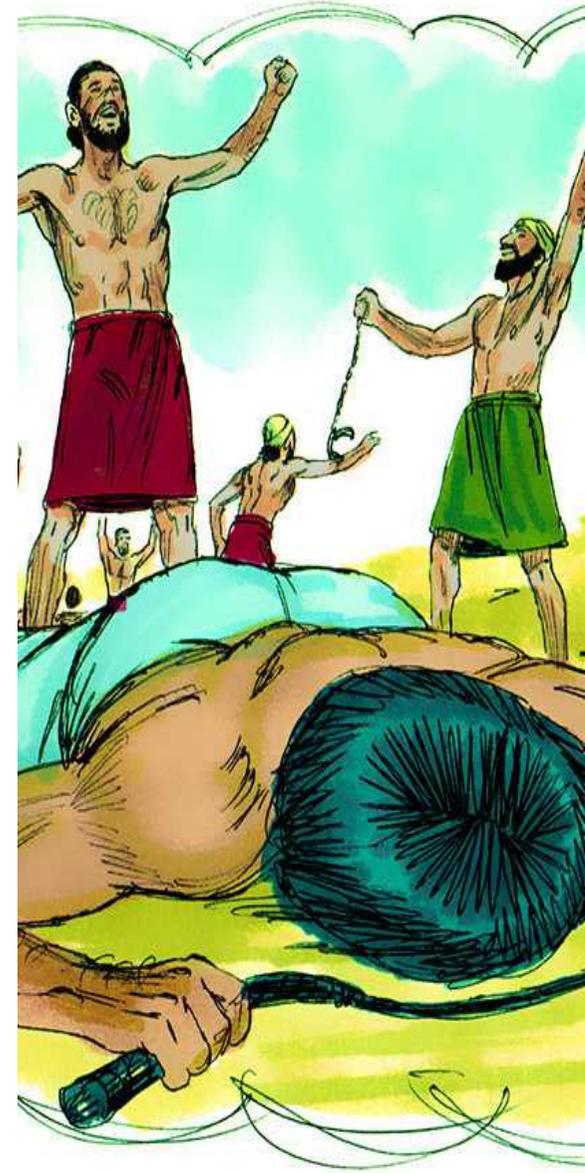
アブラムの時代には、一世代を100年と数えた？

※エモリ人 ...カナンの民の呼び名の一つ。

■イスラエルの奴隷の400年は、

カナン人にとっては、悔い改めの猶予期間。

イスラエルが、カナンの裁きの器として用いられる。



【創世記15:7～21の構造】

1. 契約の締結の準備 ⇒
(1～11節)

2. エジプトでの苦難の予告 ⇒
(12～16節)

3. 契約の締結 ⇒
(17～21節)



【契約の締結】 創15:17

さて、日は沈み、暗やみになったとき、そのとき、煙の立つかまどと、燃えているたいまつが、あの切り裂かれたものの間を通り過ぎた。

※シャカイナグローリー、神の栄光の顕現。

■ 神だけが、裂かれた犠牲の間を通過。

■ この契約の責任は、神だけが負う!!

⇒ **片務契約** **無条件契約**

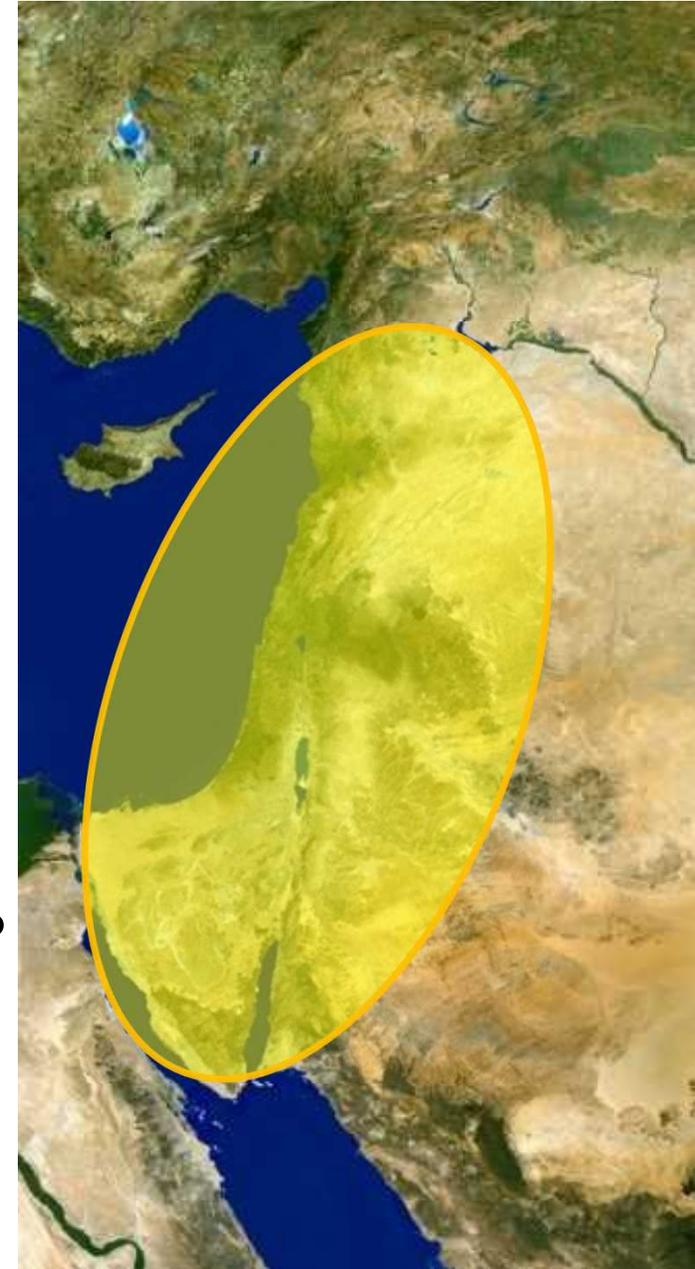
■ アブラムと、その子孫に何があろうと、神がこの約束を完全に成し遂げられる!!



【約束された土地の範囲】 創15:18～21

その日、【主】はアブラムと契約を結んで仰せられた。「わたしはあなたの子孫に、この地を与える。エジプトの川から、あの大川、ユーフラテス川まで。ケニ人、ケナズ人、カデモニ人、ヘテ人、ペリジ人、レファイム人、エモリ人、カナン人、ギルガシ人、エブス人を。」

- 永遠の契約は今も有効。イスラエルが所有者。ただし、占有権は失っている状態。
- イスラエルが全範囲を所有したことはない!! 完全に手にするのは、千年王国において!!



【アブラムが教えられたこと 15章まとめ】

■ 子孫の約束、土地の約束の再確認。

■ 正式にアブラハム契約が締結 ⇒ **無条件契約**

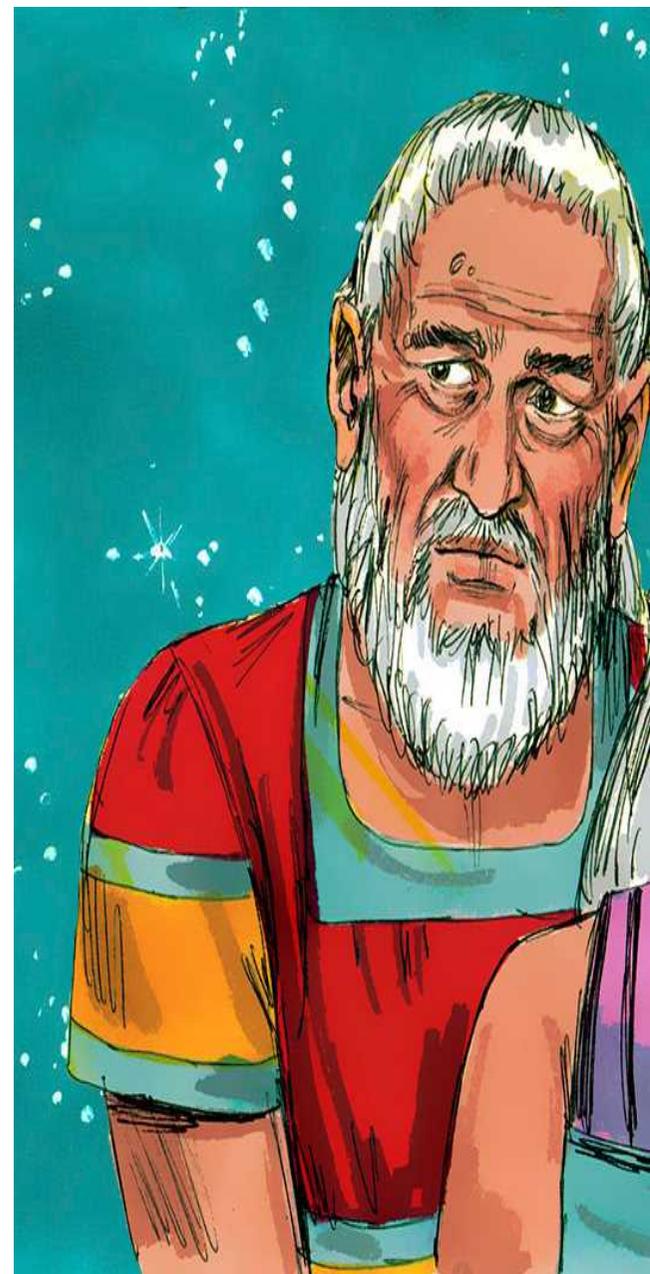
【新たに啓示された重要な真実】

■ アブラムの子孫が経験する奴隷の苦難。

■ イスラエルの苦難の400年が、
カナン人の悔い改めの猶予期間となり、
神は、イスラエルを裁きの器として用いられる。

■ 信仰者は、試練の中を通らせられる!!

全人類を救う、神の計画に用いられるために!!



Ⅲ. イシュマエルの誕生

創世記16:1～16



【サライと女奴隷ハガル】 創世記16:1~6

■ 子孫の約束にも関わらず、サライは不妊。

■ サライの申し出もあり、アブラムは慣習に従い、エジプト人の女奴隷ハガルに子を産ませた。

⇒カナンの地に住んで十年目。

■ 身ごもったハガルは、女主人サライを軽んじた。

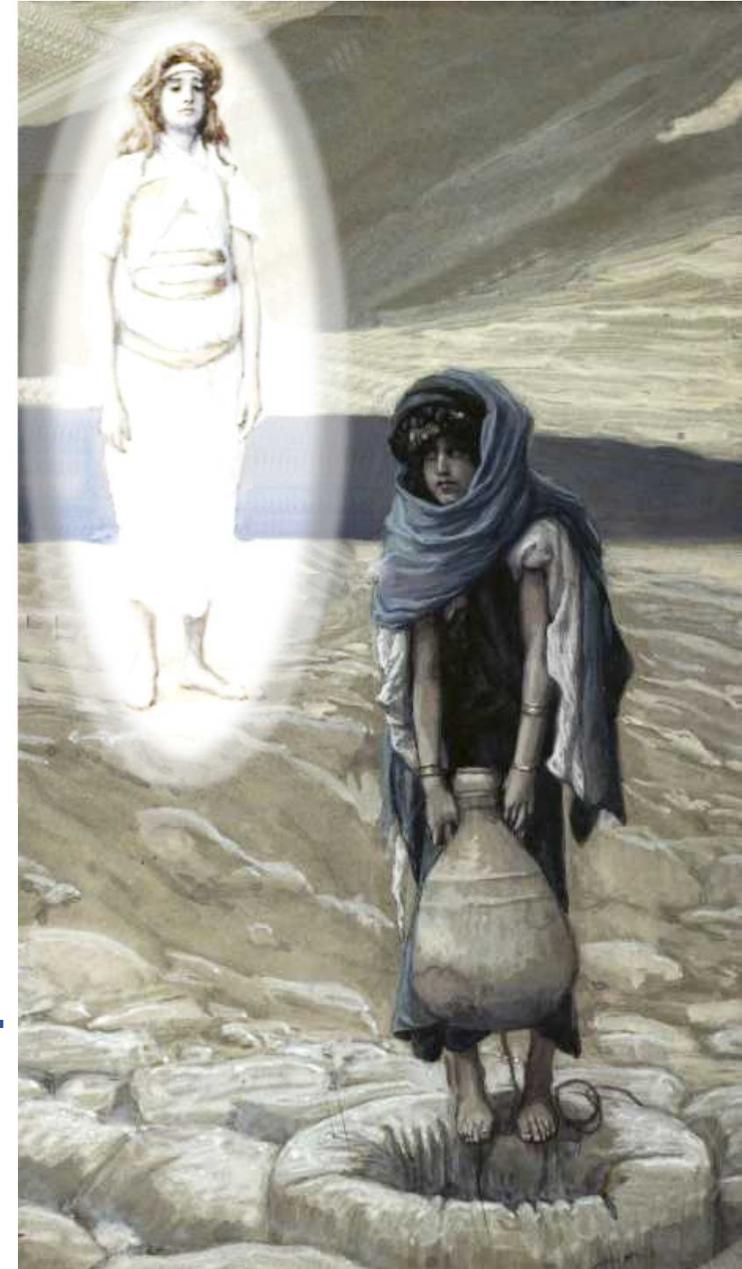
■ アブラムに責任をなすりつけるサライに、
「お前の奴隷だから、好きにしろ」とアブラム。

■ サライのいじめに、逃げ出したハガルは...



【ハガルと主の使い】 創16:7～10

【主】の使いは、荒野の泉のほとり、シュルへの道にある泉のほとりで、彼女を見つけ、「サライの女奴隷ハガル。あなたはどこから来て、どこへ行くのか」と尋ねた。彼女は答えた。「私の女主人サライのところから逃げているところです」そこで、【主】の使いは彼女に言った。「あなたの女主人のもとに帰りなさい。そして、彼女のもとで身を低くしなさい。」また、【主】の使いは彼女に言った。「あなたの子孫は、わたしが大いにふやすので、数えきれないほどになる。」



【ハガルと主の使い】 創16:11

さらに、【主】の使いは彼女に言った。「見よ。あなたはみごもっている。男の子を産もうとしている。その子をイシュマエルと名づけなさい。【主】があなたの苦しみを聞き入れられたから。彼は野生のろばのような人となり、その手は、すべての人に逆らい、すべての人の手も、彼に逆らう。彼はすべての兄弟に敵対して住もう。」そこで、彼女は自分に語りかけられた【主】の名を「あなたはエル・ロイ」と呼んだ。それは、「ご覧になる方のうしろを私が見て、なおもここにいるとは」と彼女が言ったからである。



【約束はいまだ】 創16:14~16

それゆえ、その井戸は、ベエル・ラハイ・ロイと呼ばれた。それは、カデシュとベレデの間にある。ハガルは、アブラムに男の子を産んだ。アブラムは、ハガルが産んだその男の子をイシュマエルと名づけた。ハガルがアブラムにイシュマエルを産んだとき、アブラムは八十六歳であった。

※生きて見ておられる方の井戸

- アブラムも、ハガルへの主の言葉を受け入れた。
- 約束の子の誕生は、14年後のこと。





IV. まとめと適用

アブラムに学ぶ
信仰と行いの関係

【アブラムを通して学ぶ、救いの原則】

彼は【主】を信じた。

主はそれを彼の義と認められた。

■ アブラムは、主の約束を信じて救われた。

■ 聖書の救いの教理の大原則 ⇒ 信仰義認

■ 聖書が教える、救いの不変の原則

① 信じるべき対象 ⇒ 唯一の神

② 信じるべき内容 ⇒ その時代に啓示された神の約束

③ 救いの方法 ⇒ 信仰により恵みによる

救いに求められるのは、
唯一の神の約束を
信じる信仰!!



【アブラムが学んだこと!!】

- 神の約束の確かさを体験的に学んだ。

エジプトでの失敗にも関わらず、主の約束がアブラムを守った。

- 神の力と守りを知った。

強大な敵にも打ち勝つ力を与えられ、主をますます畏れた。

- ただ、信仰により、恵みによって救われたと知った。

- 子孫の苦難の時が、カナンの悔い改めの猶予期間だと教えられた。

神の選びには、使命があり、そのための試練があると学んだ。

【神が求める、信仰のステップアップ!!】

- **ただ、信仰により、恵みによって救われると知り、主を信頼する。**
- **神の約束の確かさを体験的に学んでいく。**
神の契約は、無条件契約であり、神が絶対に果たされる。
⇒ 行動しなければ成長しない!! 自発的でなければ意味がない
- **そして、信仰者には使命がある。**
神の祭司となり、神と人々をとりなし、全ての人を救いに導く!!
- **信仰者は、使命のために試練に遭う。信仰の成長のために、訓練される。**
- **しかし、どんな時にも、主が共にいてくださる。**
来たるべき王国において、計り知れない報いが約束されている。